

2023-2024年度国際ロータリーのテーマ



世界に希望を生み出そう

2023-2024年度国際ロータリー第2690地区のスローガン
希望の種を播きましょう。育てましょう。2023-2024年度岡山北ロータリークラブのスローガン
存在感のあるクラブを目指そう

2023～2024年度 Rotary Club of Okayama North

Rotary 週報

国際ロータリー第2690地区第10グループ
岡山北ロータリークラブ事務所 / 〒700-0901 岡山市北区本町6-36 第一セントラルビル6階西F号室
TEL.(086) 222-9590 FAX.(086) 224-4288
E-mail : okayamakita@ok6rc.jp
http://okayama-kita-rc.jp/例会場 / 岡山市北区駅元町1-5 ホテルグランヴィア岡山
例会日 / 毎火曜日 12:30～13:30

理事・役員

2023.7～2024.6

会 長(理事)	岸 本 達 也
副会長(理事)	高 橋 茂 樹
幹 事(理事)	永 山 山 島
副幹事	磯 双 田
会 計	上 野 山
S.A.A.(理事)	妹 尾 一
副S.A.A.	

会員増強・退会防止(理事)	安 原 孝 則
広報(理事)	坪 井 翔
奉仕プロジェクト(理事)	中 山 賢 太 郎
ロータリー財団(理事)	橋 田 歳 行
親睦活動	馬 場 幸 三
プログラム	杉 本 康 成
直前会長	廣 野 景 治
次期会長	高 橋 茂 樹

モバイルサイトへのアクセスは
QRコードをご利用ください。
(岡山北RCホームページ)

きょうのプログラム

「夜間例会～夜桜の宴～」

次回4月2日のプログラム

「新天地育児院と岡山孤児院について」

新天地育児院 施設長

梅 里 拓 志 様

4月のお祝い行事

会員誕生日：青木、浜田、永山、双田、杉本、
高橋、山本(宣)君

結婚記念日：皆木君

前回3月12日の例会記録

出席の状況

会 員 数 50名 (出席免除者0名)

出席者数 32名

欠席者数 18名

出 席 率 64.00%

スケジュール

4月 環境月間

2日(火) 12:30～例会：梅里拓志様(新天地育児院)

13:40～第10回理事役員会

7日(日) 地区研修・協議会

9日(火) 12:30～例会

16日(火) 12:30～例会：地区研修・協議会の報告①

23日(火) 12:30～例会：地区研修・協議会の報告②

24日(水) 18:30～6RC合同懇親会 岡山プラザH

27日(土) 9:00～新天地育児院奉仕活動

30日(火) 例会取消し(定款第7条第1節)

5月 青少年奉仕月間

7日(火) 例会取消し(定款第7条第1節)

14日(火) 12:30～例会：総社RC合同例会

13:40～第11回理事役員会

21日(火) 19:00～会場移動夜間例会

28日(火) 12:30～例会

本日のメニュー：夜間例会特別メニュー

次回のメニュー：和食

会長挨拶



来週は、お彼岸となります。お彼岸というのを改めて調べてみると、端的に言えば春分の日、秋分の日を中日として7日間、ご先祖様の供養を行いつつ、仏教修行をすることで自分自身を見つめなおす時期と書かれてありました。ご先祖様がいないければ、今の自分はいないわけですから、お彼岸にもご先祖様の供養やお墓参りをぜひ行っていただきたいと思います。

先週水曜日には、グランヴィアで行われた岡山RC創立90周年記念式典に、永山幹事と一緒に参加してまいりました。来賓者は、なんと130名、全出席者は250名と、とても豪華で華やかであった半面、なぜかほっとするような式典でもありました。岡山RCは、京都RCをスポンサーに全国で11番目にできたクラブだそうで、東京や広島、京都、大阪にはOB会もあり、長い歴史を感じました。また、岡山RCの周年式典は10年ごとに行われているそうです。

また、翌日行われました第2回目のIDMには多くの方にご参加いただき、ありがとうございました。当クラブの奉仕活動の報告をさせていただきましたが、そのあと、場所を変えての懇親会では、しっかりとディスカッションができたのではないかと思います。

4月27日には、新天地育児院内の石井十次の記念碑の周りの清掃という社会奉仕活動や、育児院の職員さんへの勤続表彰という職業奉仕活動を行う予定です。当日は、多くの皆さんにご参加くださいますようお願いいたします。

本日例会前には、榊原ガバナエレクトと西川次期地区代表幹事がお見えになりました。在籍されている岡山南RCも同じ火曜日の例会ということで、例会のご出席がかなわなかったのですが、次年度地区大会の願いで、わざわざお越しいただきました。

幹事報告

1. 3月7日開催の「第2回IDM・懇親会」には多くの皆様にご出席いただきありがとうございました。
2. 本日例会終了後13:40より3F「トパーズの間」において「第2回被選理事役員会」が開催されますので、次年度理事役員の皆様よりしくをお願いいたします。
3. 4月の例会の出欠確認表を回覧させていただきます。お手数をお掛けいたしますが回答欄にご回答くださいますようお願いいたします。
4. ロータリーの友3月号を配付しております。
5. 次週3月19日の例会は、定款第7条第1節により取消しとなっておりますのでお間違えの無いようお願いいたします。
6. 他クラブ週報を回覧いたします。



幹事報告

S. A. A.

岸本君：先週のIDMご参加頂きありがとうございました。

高橋副会長、PETSの報告楽しみにしております。

高橋君：本日、PETSの報告をさせていただきます。宜しくお願い致します。

永山君：先週のIDMの懇親会、高田屋をご利用ありがとうございました。わらびもちもみなさん買っていたいただき、感謝です。

磯島(慈)君：誕生日のお祝いを頂きありがとうございました。

廣野直前会長おいしいわらびもちを頂きありがとうございました。

杉本君：PETSの報告よりしくをお願い致します。

平野君：本日はよりしく願いします。

又、私事ですが、先週末に娘が時間を取って欲しいと昼に彼氏と一緒にあいさつ。高身長に見上げて恥ずかしくなり敬語で対応してしまった。

妹尾君：本日も多くのスマイルありがとうございました。



スマイル報告



出席報告

委員会・活動報告



雑誌委員会 副委員長 難波 佳那 会員

ロータリーの友3月号の紹介

3月は「水と衛生月間」ということで、特集の「トイレ、その先へ」の記事を紹介いただきました。

ロータリークラブ初の奉仕活動が、アメリカ・シカゴ市への公衆トイレの寄贈だったそうです。2年続けてカンボジアを訪問し、ゴミ箱の寄贈と環境教育について国際奉仕事業を実施してきましたが、実際、小学校やお寺のトイレを何度かお借りしました。IDMの報告会でも、

カンボジアの子供たちがよく腹痛を起こす事例などをお聞きし、不衛生な環境やトイレが原因で児童の下痢や感染症に罹患している状況を想像できました。国道沿いでは下水管の工事を目にしましたが、田舎の民家ではトイレの排水はまわりの土や川に流されており、雨期になって野外に排泄されたままの牛の糞などと一緒に土壌や農作物が汚染される状況だと思います。今年訪ねた小学校には、日本からの援助でトイレが寄贈されていて、子供たちのために鍵をかけて管理されていました。

(廣野 記)

<第2回IDMを開催：内容はこの週報後半に掲載>

テーマ：「よきことをせむ」カンボジア国際奉仕事業報告・新天地育児院奉仕事業

日 時：2024年3月7日（木）

報告会 18：30～ 於：ホテルグランヴィア岡山

懇親会 19：45～ 於：高田屋駅前店



岸本会長挨拶



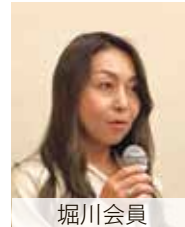
カンボジア報告



スライドで行程を説明



奉仕P中山常任委員長



堀川会員



渡辺会員



谷本R情報副委員長



牧本国際奉仕委員長



新天地育児院奉仕事業



発表をする宮井委員長と吉田委員長



スライドで事業説明と参加協力依頼

PETSの報告



次期会長 高橋 茂樹 会員

PETS報告

日程：2024年3月2日（土）・3日（日）
会場：ANAクラウンプラザ岡山

国際ロータリー第2690地区 会長エレクト研修セミナー

- ・セッション「1」
「基調講演」
地区ガバナーエレクト 榊原 敬
- ・セッション「2」
「会長エレクトとして 今日やるべきこと」
次期地区ラーニングファシリテーター 佐藤芳郎
- ・セッション「3」
「全ては子供たちの笑顔のために」
東京イマジジヨイナスRC創立会長 福倉 進



PETS：会長エレクトの皆さまへ



2024-25年度に向けて
良き1年を目指して
今から準備万端
よろしく願い申し上げます
第2690地区ガバナーエレクト
榊原 敬

RI会長エレクト ステファニー・アーチックのメッセージ

ロータリーのマジック



- ・奇をてらうのではなく 予想しない結果をもたらすこと～ロータリーの底力であり 魅力である
- ・「奉仕」を通して クラブの活性化を図ること
会員増強を進め新しいクラブを設立する ことを目指す
- ・最後先課題はEnd Polioと会員増強
- ・デザイン
オレンジ：節目の終わりの変化の原点
スカイブルー：知識、知性、信頼、忠誠心
→変化し、前進することを示す

RI会長の目標（1）



- 重点目標
- ・ End Polio
（根拠理由）
生活の向上（麻痺2000万人・死亡150万人を回避）
未来への投資（毎年麻痺20万人を回避）
子どもの健康を向上
医療費の削減（1988年以降270億ドル以上削減）
歴史をつくる（天然痘に次いで根絶）
- ・ 会員増強（地区）
100人の会員増
4つの新クラブ設立（衛星クラブ・アクトクラブを含む）

ビジョン声明（基本的な考え方）

・ビジョン声明

私たちは世界で、社会でそして自分自身のなかで持続可能な良い変化を生むために人々が手を組み合って行動する世界を目指しています

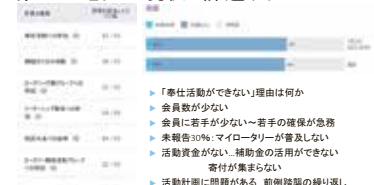
・行動規範

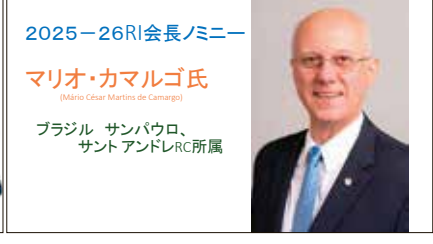
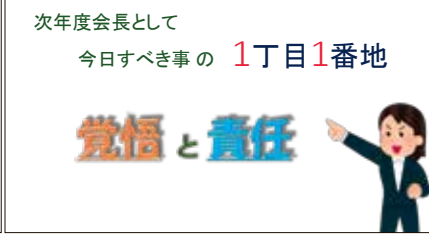
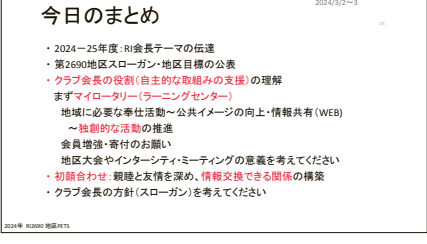
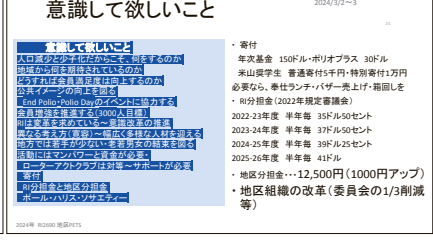
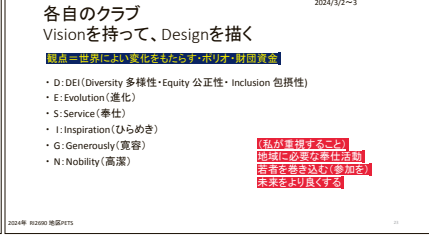
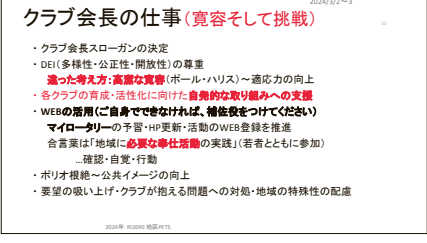
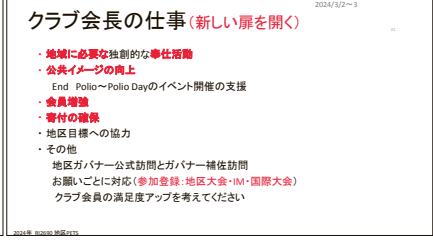
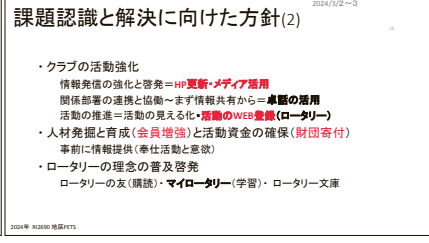
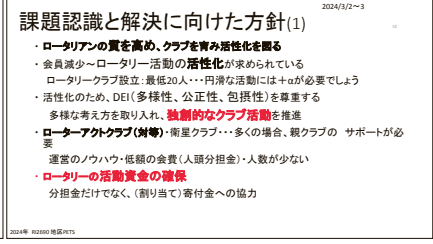
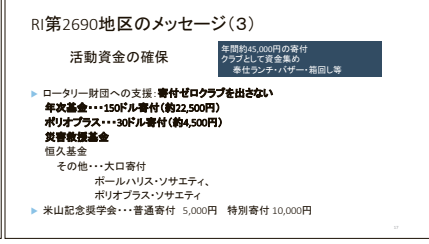
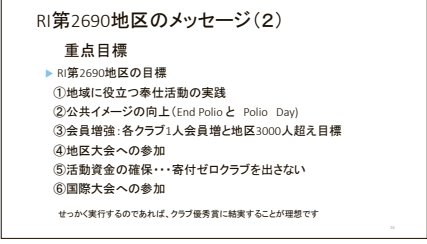
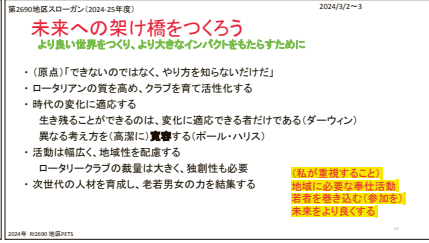
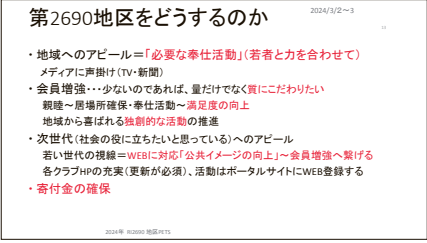
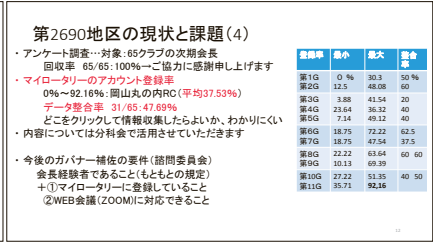
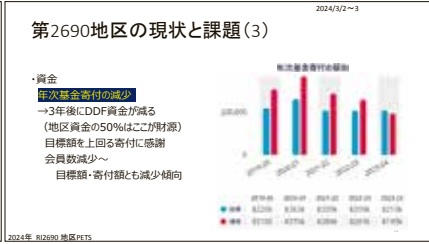
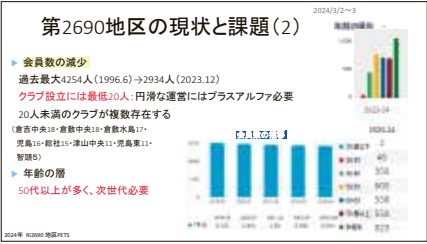
ロータリーの中核的価値観：
親睦、高潔性、多様性、奉仕、リーダーシップ

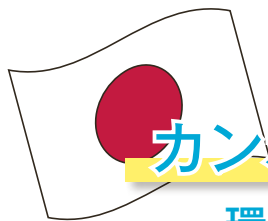
RI会長の目標（2） 2024-25年度の共同目標



第2690地区の現状と課題（1）







カンボジア王国への国際奉仕プロジェクト報告

—環境教育のための分別ゴミ箱の設置と標語の看板設置—

(2024.1.21～1.25)

会 長	岸本 達也	ロータリー情報委員会	委員長	廣野 景治
奉仕プロジェクト常任委員長	中山賢太郎	ロータリー情報委員会	副委員長	谷本 章
国際奉仕委員会 委員長	牧本 太郎	プログラム委員会	副委員長	堀川 洋子
会報委員会 委員長	渡辺 玲			

国際奉仕事業

カンボジア王国での環境教育と分別ゴミ箱の寄贈

発表者：牧本太郎



岡山北ロータリークラブ
創立55周年記念事業

カンボジア王国の 環境問題

1. 目覚ましい経済発展
内戦終結後GDPは約10倍
2. インフラ問題
集積場・焼却場の容量がなく
ゴミ山に投棄される
3. 習慣の問題
ゴミ分別の習慣がない
ゴミ箱に入れる習慣もない



投棄ゴミの 影響

1. 周辺住民の健康被害
土壌・水質汚染による食への影響
2. 浸水被害
スコールによって流されるゴミ
3. マイクロプラスチック
カンボジアを流れるメコン川



岡山北ロータリークラブに 出来ること

1. 環境整備活動NGOとの連携
情報収集
現地での事業実施
2. 環境教育
行政・寺院・学校との対話
子どもたちへの訴えかけ
3. 分別ゴミ箱の設置
分別ゴミ箱の寄贈・設置
啓発看板の設置



創立55周年記念事業

1. 活動力の強化
NGO活動資金の寄付
2. 連携の強化
NGOとの交流会の実施
3. 地域の方々と交流
NGO以外の方とも交流



昨年度の成果と今後

1. 1年後の訪問
ゴミは0ではないが
ゴミを拾う子ども
2. 時間をかけて
意識改革
子どもたちへの期待



創立55周年式典で発表

カンボジア王国への国際奉仕プロジェクト（2024.1.21～1.25） —環境教育のための分別ゴミ箱の設置と標語の看板設置—

牧 本 太 郎

【1月21日（日）】

06：01の始発のぞみに乗って関空へ。ベトナム航空を使い、ホーチミン経由でカンボジアの首都プノンペンに16：50着（現地時間・日本が2時間早い時差です）。

プノンペン空港では協力していただく相引さんとサラッさんとオンさんが出迎えてくれました。三人ともNPOメンバーで、カンボジア国内で環境整備活動をされています。

プノンペンで夕食を取り、専用車で約1時間かけてコンポンスプー州のホテルへ。

夕食会には医者を目指す高校生も参加し、カタコトの英語で交流。

【1月22日（月）】



活動支援金を贈呈

朝食後、涼しい朝に通訳のサラッさんの家でゴミ箱の組み立てと分別シール貼り。汗がでる。

55周年記念事業として、NPO法人へ活動支援金を贈呈。全員でゴミ拾いを行い、次年度の設置候補地の小学校を視察、先生方との対談。昼食後 Tropaing Phnao の寺院へ移動し贈呈式を開催、120Lゴミ箱を5台贈呈する。その後昨年贈呈した寺院を視察、ゴミが0とは言えないがかなりきれいだった。ゴミを拾ってゴミ箱へ捨てる子供の僧侶の姿が見られ、成果を実感できた。

【1月23日（火）】

朝食後 Prey Boeung の小学校と寺院へゴミ箱を贈呈するため移動。到着すると子供たちから熱烈的な歓迎を受け、もみくちゃにされる。

行政の方、寺院の僧侶、小学校の先生方、そして小学生約100人が参加しての贈呈式。120Lのゴミ箱を寺院と小学校それぞれに10台ずつ、計20台を贈呈。行政の方の熱のこもった挨拶と小学生の素直な返事が印象的だった。会長は子供たちに向け、環境の大切さ、衛生管理の大切





さなどをお話しされ、ゴミの無い街にすると自分たちにどのような将来がやってくるのか未来像を考えさせておられました。子供たちは納得した表情で挨拶を聞いていました。また、僧侶や教師には環境教育の大切さを理解していただき、学生の子供たちに、寄贈した分別ゴミ箱の説明、環境教育のお話をしていただいた。御礼に感謝状をいただいた。なお、贈呈式の模様はZOOMで中継して例会会場に映した。通信環境の脆弱さから通信が途切れ

れたり、映像が止まったりすることもあったが、なんとか中継できて良かった。贈呈式後、サラッさんの実家に立ち寄りおいしいマンゴーを食し、プノンペンへ移動。

【1月24日（水）】

観光Day。プノンペン空港からアンコール遺跡のあるシュムリアップへ空路で移動。到着後昼食。観光都市であるシュムリアップはコンボンスプーとは違いゴミが少ない。アンコールワットとアンコールトムを観光し、夕食後21：35発の飛行機で帰路へ。ホーチミンでトランジットし、予定より少し送れて07：40関空着。お疲れ様でした。

【寄贈先のお寺】Kompong Speu（コンボンスプー州）、Tropaing Phnao 寺院、Prey Boeung 小学校、Prey Boeung 寺院



アンコールワット パワースポットで絆を

追記：今回は初日と二日目の夕食会に高校生と小学生が参加してくれた。カンボジア人の勉強熱の高さと国を良くしたいという思いを感じ、カンボジアという国の未来が明るく感じられた。だが、政情や経済状況を知見するにまだまだ支援が必要だと感じる旅であった。



24日シュムリアップ空港にて

2024.1.23

子供たちへのメッセージ

岸 本 達 也

こんにちは。スオスダイ。



「ゴミは分別してゴミ箱に」

今日は皆さんにお願いがあって、日本から来ました。

それは、「ゴミは決められた場所に捨てる」ことです。

自分の身の回りの道路や公園にゴミが散乱しているのを見ると、皆さんはどんな気持ちになりますか。

かつて、日本も80年前に戦争が終わった時、人々は貧しく、街はゴミで汚れていて、大変不衛生な状態で健康を害している人たちがたくさんいました。

その後、日本人は努力をして、ゴミはゴミ箱に分別して捨てるようになり、街は美しくなり、衛生面も改善されて病気になる人が減り、今では世界屈指の長寿国となりました。

誰かがやってくれるのではなく、自分から率先してやりましょう。皆さんがゴミをゴミ箱に捨てれば、皆さんより若い人たちもそれを見習って、さらに美しい街になっていくと思います。未来のカンボジアのために行動を起こしましょう。



23日に式典



道中も石が気になります



事業終了お疲れ様です



シュムリアップにフライト



アンコールワット



アンコールワットでも
石が気になります



アンコールワット少しバテ気味です。

2001年に始まったタイ国バンミ村の小学生300人に靴を寄贈する国際奉仕事業には参加出来ていませんでしたが、昨年度の事業見直しで急遽カンボジアでの事業を行うとの案内が届いた際に、コロナ禍も終息し、事業内容よりも此の機会でカンボジアに行かないと将来行く事はないだろうと思い、昨年は事業参加を決めました。時間的にあまり余裕がない案内となり、パスポートの失効とかで結局3名の参加になりました。昨年の印象は、とにかくあらゆる所にゴミが散乱していて、「ゴミはゴミ箱に捨てる」教育が出来ていない昭和35年当時の日本と同じ状況でした。現地のNGOの方々との懇談の中で、以前安倍首相がカンボジアを訪れた際、「何故日本は綺麗なのですか？」との質問に、安倍首相が「教育です」と答えられたとお聞きした事と、ゴミ箱の贈呈式の時に寺院の僧侶のお話を小学生が静かに聞いていたのが印象的でした。次年度の設置小学校の下見をするなど、観光をする時間も無く、ひたすら事業に専念。少人数でしたが、現地の方々にお手伝いをいただき、何とか形に出来たのではないかと思います。

事業2年目、今回は、「アンコールワット」見学付きの魅力とその後の状況を確認したく、6名の会員と同じ州の別の寺院と昨年度下見をした小学校にゴミ箱の寄付を行いました。また、昨年寄付した寺院を訪問しましたが、境内にはほとんどゴミが見当たらなかった事、近く別の寺院からゴミ箱の要望があった事、今回のゴミ箱寄付の贈呈式の際に、州の役人の挨拶が、ゴミはゴミ箱に捨てる話を熱く語っておられたのが印象的でした。

年が経過する度に、少しずつ盛り上がっている様に感じられます。ホップ・ステップ・ジャンプ、是非次年度も参加したいと思っています。



21日プノンペンで夕食会



22日ゴミ箱準備



来年の学校を訪問



昨年のお寺に建築中の寺院



お疲れ様。今年も私のベッドに



23日式典



コンビニで昼食を



24日シュムリアップで

国際奉仕事業として、昨年に続き2024.1.21～25までカンボジア王国へ行ってまいりました。21日の朝6時の新幹線で岡山を出発して、ベトナムのホーチミン経由でカンボジアのプノンペンに着き、そこからコンポンスプーのホテルに着いたのはすでに夜でした。今回も一緒に活動したのは相引さんと、カンボジア男性のサラッさんと女性のオンさんとドライバーさん。私たち岡山北RCメンバーは今回7名でしたので、とても賑やかで活動的でした。

英語は全く通じません。クメール語はもっと分からないので、「こんにちは」と「ありがとう」を覚えようと、スオスダイ=こんにちは オークン=ありがとう この2つだけで今回もコミュニケーションをとりました。

今回も暑いのですが、でも前回に比べるとかなり涼しくて快適でした。



そして、今回もゴミ箱25台にシール貼りや組み立て作業をみんなでした！シール貼りや組み立てといっても予想を超える重労働で、大きなゴミ箱が重なってるのが、抜けなくて抜けなくて…ほんとうに困りましたが、今回は人手が多いので短時間で作業を終えることができました。そして、今回は近隣のゴミ拾いをすることもできました。

その後、翌日のセレモニーの打合せや確認をして、次期のゴミ箱設置候補地の小学校を訪れて先生方々と打合せや会談をし、去年ゴミ箱を設置した小学校を訪ね、とても懐かしい場所でした。大切にゴミ箱も使用されているようですし、何よりも綺麗になっていてとても嬉しかったです。夕方からは交流会を楽しませていただきました。

翌日のセレモニー当日も朝7:30に集合して朝食後にセレモニー会場の小学校へと向かいました。道中、やはり道沿いにはゴミがとても多いのと、ガリガリに痩せた牛がとても目に焼き付いています。そして、またたくさんの小学生と先生方と寺院の方々が私たちを待ってくださっていました。今年は地元の行政の方もきてくださっていました。到着すると、私たちが乗っていた車が小学生に囲まれ、また車から降りると、芸能人でもあるかのように子供たちがたくさん近寄ってきてくれて、手を繋いでくれたりと歩くのも困難なくらいにギューギューな感じで大移動しました。

また、こちらが、プレゼントを渡さないといけないのに、逆にプレゼントをいただきました。小学3年生くらいでしょうか!! 可愛い女の子が、キャンディとセーラームーンみたいなかわいいキャラクターのシールやおもちゃをくれたのです!! しかも新品で大事そうにもっていたものを3品もくれたのです。なんだか、とても申し訳ない気持ちでいっぱいだったのですが、感激した勢いでいただきました。決して裕福ではないだろうに、でも気持ちはとても裕福なんだろうなとほっこりしました。私のネイ



ルを見てずっと触ったり何か話しかけたりしてくれるのですが、言葉が通じないので、お互いずっと笑顔とジェスチャーでのコミュニケーションだけでした。ですが、なんだか居心地がとてもよかったです。

女の子はもちろん、男の子もみんな可愛い顔の子が多くて、とにかくみんなお洒落なんです!!女の子は当然のようにピアスをしていますし、男の子もみんなヘアスタイルに気を使ってるのか、美容院帰りのようにお洒落さんです。

それなのに…!!

それなのに、なぜ? ゴミはゴミ箱へ捨てないのか?!!と…。

なぜ、衛生面にはなかなか繋がらないのでしょうか!!

前回も同じことを思っていました。

岸本会長も子供たちに向け、環境の大切さ、衛生管理の大切さなどをお話しされ、ゴミの無い街にすると自分たちにどのような将来がやってくるのか未来像を考えさせるように訴えられました!!

ガイドさんも言っていたのが、カンボジアの子どもの病気といえば、腹痛だそうです。発熱なんてほとんどなくて、病気といえば水による腹痛とのことです。なので、やはりまずは、ゴミはゴミ箱へ捨てる!!この一人一人ができることを、だんだんにあたり前にしていって、こんなあたり前が、まずは衛生面から環境を整えてくれますし、ひいてはインフラ整備へと繋がることだと信じています。人間だれしも綺麗にしているところへは、ゴミを捨てにくいはず!!こんな、可愛い子供たちには尚更に、人間は平等です。元気に将来を幸せに、そして長生きしてもらいたいと願います。

人間一人でできることは小さいことかもしれませんが、一人一人が気を付ければ、物凄いことになります!!

今回も、岡山北RCの活動として、大きな活動ができたことにとても達成感もありますし有意義な時間をすごせたと実感しております。

次回、またカンボジアを訪れたとき、皆さんの意識が少しでも変わっているのを見るのがとても楽しみです。

■2023-24年度 カンボジア国際奉仕事業に参加して

渡 辺 玲

これまで、私にはなじみも薄く訪れるのも初めてのカンボジア王国である。恥ずかしながら地理も歴史も政治も、それまでは知識ほぼ0であったが、このような機会がなければ一生行くことはないかもしれない、そんな自発的な理由による本奉仕事業の参加である。

予習して得た知識も含め、このたび、充実した活動とともに多くの学びを得ることができ、また多くのカンボジアにかかわる人々と出会い、自分にとってはもちろん、奉仕活動としても大変有意義であったと思う。

1. 本国際奉仕事業の意味

当初の私は、不謹慎にも本事業の奉仕活動という目的性は二の次に近く、わざわざ日本の岡山という地方のロータリークラブのひとつが国境を超え、海外の深刻な環境問題に対し、直接援助の手を差し伸べるのであるから、身の丈のあった役割として疑問を持つ考えも無くはなかった。また、他方からすれば日本人がカンボジアにやってきて、自分たちが生活上疑問なく行っている行為に文句を言うのであるから、活動がどのように受けとめられるのだろうかとも思った。

しかし、地元のNGOに参加し活動する日本人、井上相引氏は「国連や政府間の様々な援助も、現在の政治では末端まで行き届かない」「地方では教育をしようにも、そのための教材すら買えない」と訴える。

我々ロータリーの物的、金銭的支援はささやかだが、特に地方では地元と結びついたNGOの活動が、問題に直面している人々の生活を直接支えている実態を目の当たりして、多くを理解することとなった。

海外からの旅行者は、日本の街にはゴミ箱がないにもかかわらず、ゴミが街に捨てられていないことに非常に驚くという。日本の街にゴミが少ないのは、外にゴミを捨てても消えてなくなることはなく、そのゴミが地球環境に悪影響を与え続けることを日本人が知っているからだ。ゴミ箱がなければゴミは持ち帰るし、駅や店内などのゴミ箱は、管理されていて必ず回収するシステムがあるから、安心してゴミを捨てられる。

カンボジアでは、今後さらに教育と行政のゴミ回収システムの確立は必要であると思われるが、本事業は単にゴミ箱を配る事業ではなく、私はこれを通じてカンボジアの人々に環境問題を伝えつつ、ゴミを回収するシステムを身近な行政に根付かせる端緒となることを期待したい。

2. 街の美観風致と人々の生活：『百聞は一見にしかず』

このたび訪れた街は、支援対象の寺院や小中学校がある「コンボンスプー州」と、カンボジアの首都「プノンペン市」、世界遺産アンコール＝ワットなど遺跡群のある観光地「シュムリアップ市」である。私にとって、この3つが比較できたのは大きな意味を持った。まさに『百聞は一見にしかず』である。

①コンボンスプー州

我々が訪れた季節は、乾季の前半（11～1月＝涼季）にあたり、水路の多くは干上がり、緑や草も枯れて元気がなく、土埃が常に舞っている。おそらく雨季と乾季の景観の差は大きい。乾燥しているが気温は高く、大規模なサトウキビ畑やマンゴー畑、あるいは食用とされる牛が放牧される風景が延々と広がっている。人々は水路や池にゴミを捨てるのだろう。そしてこの時期、干上がった水底から大量のゴミがあちこち露出する。

支援先では外国人が来ることは珍しいようで、我々が訪れると、小学校では小さな子供たちが寄ってきてタッチを求めてきたり、簡単な英語で話しかけてくるなど、みな純粋で愛くるしい。しかし、多くの子供たちは裸足で、寺院で僧として生活する子供も、もともと貧しい家庭に生まれ寺に世話になっている子供たちだ。

寺院は神聖な場所で、ゴミなどはないと聞いていたが、そのようなことは決してない。我々が寄贈したゴミ箱について、校長先生は若い世代への期待感を示し率直に喜んでいただいた。僧侶の先生も「まだ足りない」「しっかり使っていきたい」と述べたうえ、その後、早速我々の訪問についてSNSにも発信してくれたそうだ。



◀支援先に向かう車から

延々と交差点のない、まっすぐの道が続く。

地形は平坦であり、遠くまで農地が広がっていて、山地や丘陵はあまり見られない。

道沿いに簡素な商店や住居が断続的に立地し、時折、放牧された牛の群れが道を横切り交通を遮断する。

沿道には、あちこちゴミが捨てられているのが、常に目につく状態であった



◀支援先の小学校で

支援先の小学校では、子供たちが寄ってきて、物怖じせず積極的にコミュニケーションを取ろうとする。

サッカーのユニフォームのような服を着ているのは、あるいは、支援物資などの古着かもしれない。近くの市場や商店にも同様の衣料品が売られていたが、「ニセブランド品」ばかりでどのように仕入れているかわからない。

②プノンペン市

カンボジアの首都であり中心部では、比較的新しい高層ビルも建設されているが、まだ'70年以前に建設されたとされる建築が中心である。また、きらびやかな独特の装飾を伴う寺院のような公共建築物やモニュメントが立地し、

カンボジアらしい都市景観をみせている。

走っている車は日本車が8割くらいだろうか。うちトヨタ車は非常に多くを占め、20系・30系プリウスなどが目立っていた。新車を扱うと思われるディーラーも見受けられるが、街なかを走る車に高年式車は少なく、日本車の多くはおそらく日本の中古車オークションで買い付けてきた業者により販売されたものだろう。

バイクに乗るにも免許は必要ないそうで、小中学生がバイクで通学する姿はコンポンスプーでもよく見たが、街でもノーヘルや3人乗りなど珍しくない。車道は広いが車線がほとんど消えていて、バイクも車も何列にもなっていて、交通ルールは無いに等しい。

カンボジアが国際社会に認められるには、環境問題とあわせて交通マナーも学ぶ必要がありそうだ。



▲プノンペン市街の朝〔国際空港前：ホテルより〕

写真はまだ朝早いですが、やがて道いっぱいに自動車とバイクが何列にもなり、大変な交通量となる。



◀官庁街・王宮の建物

国王と王妃が居住する。1866年に建てられたが、今の形には1919年にフランスによって改装された。

多くの公共施設や観光施設、高層ビルなどが集中する、プノンペンの中心地である。

③シュムリアップ市

「シュムリアップ・アンコール国際空港」は、昨年10月に開港したばかりで、中国資本によるPFI事業だが「アンコール＝ワット」等のある遺跡群から東に約51km離れていて、国道6号線で結ばれている。

遺跡群がユネスコの世界遺産として指定されるに伴い、周辺景観を守るための厳しい規制がかけられることとなるが、我々がバスで通った国道6号線は比較的きれいに舗装され、沿道にはゴミも少なく、農地や住宅の景観も先のコンポンスプーに比べ、観光地であることが意識されているように感じた。空港が遺跡の遠方に移設されたのも、観光や遺跡保護などの観点から騒音などの影響を遠ざけるためといわれる。

また、民間の所有だった遺跡が公有化され入場料が跳ね上がったというが、こうした資金がまちづくりや遺跡の補修等に使われているとすれば、世界遺産のインバウンド需要を効果的に生かした、模範的事例のひとつと言えるのではないだろうか。

また、遺跡群に向かう途中にたち寄ったレストランの駐車場に、日本とカンボジアの国旗を表示したランドクルーザーを見かけたが、これは、日本の援助で設立された地雷を除去する会社の社用車だという。カンボジアの国土には、まだ多くの地雷が残っており、この国は様々な援助を必要としていることがわかる。そして、こうした活動にも日本の資金的援助がなされていることには、日本人としていささか誇らしい気持ちになる。



◀『アンコール＝トム』バイヨン寺院に至る南大門

「アンコール＝トム」は遺跡群の一つ、12世紀後半に建てられた城郭都市。バイヨン寺院はその中央に位置する。

南大門はバイヨン寺院の入口で、車一台が通過するのがやっとの幅だが、通常的生活道路のように、地域に住む人々の車やバイクが行き来する。



◀「シュムリアップ・アンコール国際空港」の内部

2023年10月開港。中国資本によるためか、掲示等に使われる言語は、英語、クメール語、広東語の3言語。免税店もあり、中国からの観光客も多いことが伺える。

天井は非常に高く、外観の屋根形状などには、クメール文化を感じさせる意匠が施されている。

3. 本国際奉仕事業のこれから

カンボジアは内戦の影響もあって、かつて東南アジアで最も貧困な国と言われてきたが、現政府の積極的な外資の呼び込みもあって2000年以降、リーマンショック時を除き6.5%以上の経済成長率を続けており、また1999年のASEAN、2004年のWTOへの参加など、急速に国際社会へのつながりを深めている。

国民の環境問題などに対する意識はまだ低く、現在のNGOの活動を絶やすわけにはいかない。しかし、どんな田舎でもWi-Fiが整備され多くの人がスマホを操る、そんな若い層が人口の多くを占める国だ。高い成長率を背景に、必ずやカンボジア社会は環境に対する意識も追いついてくるだろう。

我々が贈ったゴミ箱がきっかけとなって、公的な分別回収の仕組みが広がっている、そんな未来も10年といわず、意外に早く訪れるのではないだろうか。

以上

「成果を感じたカンボジア国際奉仕事業」

廣 野 景 治



力強い言葉をいただきました

そった「よきことをせむ」の充実した、また、いろいろな気付きや感動をいただいた国際奉仕事業となりました。

まずは、式典前に地域行政担当者の方と岸本会長と一緒に我々の環境教育に対する想いをお話することができ、日本で開催される岡山北RCの例会にオンライン配信することができた式典において、今回寄贈したゴミ箱を活用して、「行政担当としてゴミの環境問題に取り組んで指導をしていく」と力強い言葉をいただいたことは大きな成果と感じました。

私は常々、環境問題の課題は「教育」と思っています。先日、日本の環境教育の取り組みについてのテレビ番組があり、戦後の焼け野原から急成長していく日本もかつては、ゴミを道端に捨てるのが当たり前で、大きなゴミ箱を持ってきて生ゴミもそのまま道端に捨てて、ハエがたかる映像には本当に驚いた次第です。まさに今のカンボジアと全く同じ状況で、なぜ、今の日本の意識を変えられることができたのか。それは、1964年の東京オリンピック

クがきっかけとのことでした。諸外国からの訪問者を迎えるときに街をきれいにという政府の呼びかけから始まったそうです。もちろん、長い歴史の中での日本人の美意識とともに、お客様をお迎えする「おもてなしの心」があったからこそできたものとも思います。



かつては日本も



昨年ゴミ箱を寄贈したお寺で学ぶ子供たち

前年度に引き続き2回目のカンボジア王国への国際奉仕事業。昨年は初めての事業と言うことで準備期間も短く、谷本会員、堀川会員と3名で2泊4日の弾丸スケジュールでの4月の訪問はまさに酷暑の中でのハードな事業でした。今年度はメンバーも総勢7名となり、現地は春の気候で世界遺産のアンコールワットの観光を一日プラスし、前年度の経験を活かして、まさに創立55周年のテーマに

二つめが昨年ゴミ箱を寄贈したお寺を急遽訪問して見た光景です。昨年よりも明らかに敷地の中のゴミが減っていました。そして、遠くからこっそりと小僧さんたちが勉強をしている様子を見てみると、風で飛んできたゴミを一人の小僧さんが立ち上がって拾い、私たちの寄贈した教室のゴミ箱に入れた光景を見たときは、まさに感動。小さな一歩でしたが、本当にこの事業をスタートして良

かったと思った次第です。

三つ目は、現地の子供たちの明るさに癒されました。

首都プノンペンも経済復興していますが、約300万人が虐殺された内戦から30年たった今もその爪痕は残り、地方にはまだまだ、はだしの子供たちもたくさんいて、生活も厳しい環境だと思います。挨拶やハイタッチをしてくる孫と同じ世代の無邪気な子供たちが将来も健やかに過ごせることを願うものですし、現地で活動をするNGOの友人たちに心から敬意を表する次第です。



現地ガイドの山口さん

そして、何よりも、高額な費用を負担して、「よきこと」のために一緒に訪問してくれたメンバーに感謝です。できることであれば、訪問メンバーへの負担を減らすこともクラブとして、検討していただければと願う次第です。

また、アンコールワット観光の現地ガイドで出迎えていただいた山口のり子さんは岡山市出身（大安寺高校卒）の方で、私たちが来るのを楽しみにされていて、岡山弁でとても楽しく親切にしてくださいました。私たちの活動内容を聞いて「岡山人として誇りに思います。」の言葉は、とてもうれしかったです。

今後も発起人として、この事業を見守っていきたいと思っています。

山口さんからのメール

廣野 景治 様

この度は、弊社をご利用いただき、誠にありがとうございました。

地元・岡山からお越しになるお客様をお迎えする日を心待ちにいたしておりました。

みなさまに、少しでもカンボジアの魅力をお伝えできたら、嬉しく思います。

考えてみると、広告代理店で仕事をしていたのは、30年以上前の話になります。

改めて、「時の経つのは早いもので」を実感いたしました。

当時、勤務していた会社は、すでに岡山事務所を撤退してしまったのですが、社長もロータリーのメンバーだったことを思い出しておりました。

わたくしにとって、故郷とカンボジアが繋がっていることは、とても嬉しいことです。何かお手伝いできることがございましたら、いつでも使ってください。

また、帰路でガイドのピナーから聞いたところによると、奉仕事業は、14:00ごろに終了とのこと。コンボンスプーからでしたら、プノンペンまで戻らなくても、陸路でシェムリアップに移動すれば、その日の夜、シェムリアップのホテルでお休みいただくことは可能と考えます。

そうすれば、アンコール・ワットの朝日鑑賞にご案内することができます。朝日鑑賞の後、そのままアンコール・ワットの遺跡内を観光してから、ホテルに戻って朝食。朝食後、チェックアウトして、午前中にタ・プロームへ。

昼食後、アンコール・トム、もしくは、空港の近くにあるベンメリアにご案内してから空港にお送りする というコースもよいかと思います。

シェムリアップは「石の建造物」の宝庫です。毎年、違う遺跡にご案内させていただくことも可能です。

また、岡山のみなさまをお迎えできる日を楽しみにいたしております。



1月21日夕刻
プノンペン国際空港に到着



プノンペンでの夕食会



22日ゴミ箱準備



22日ゴミ箱準備



ゴミ拾い



昨年寄贈したお寺の近くのお寺にゴミ箱を寄贈



来年寄贈予定の小学校を訪問



22日夕刻
NGOとの交流会にはサラッさんの子どもも参加



23日式典



日本から寄贈されたトイレを借用



24日シュムリアップにプロペラ機でフライト



ランチ



アンコールワット遺跡で



遺跡のパワースポットで